

授業レポート『主体的・対話的で深い学び』の授業実践を振り返って」

〇〇〇〇学校 英語科 〇〇 〇〇

1, 公開授業の研究協議において、出た意見やその後考えたこと

【成果】

- ・単元目標（ゴールイメージ）と授業計画が生徒に明確に示されていること。
- ・落語は落ちで初めて面白さが分かるため、話し手（発表者）も聞き手も役割を意識して活動できた。

【課題】

- ・「これって、英語で何て言えばいい？」に対しては即時的なヘルプが必要。
- ・発表は動画も大切だが、ライブ（生の発表）で行うことにより、より聞き手を意識することができる。
- ・相互評価は甘く、自己評価は厳しくなりがち。評価については明確なルーブリックを示すべき。
- ・ICT 機器トラブルへの想定が必要。

活動中心の授業であったが、もう少し、計画にゆとりを持たせ、生徒に時間を与えてもよかったと思う。また、自分の落語発表について、概要・要点を確かめる質問だけではなく、落語の内容を英語で説明できるように準備をさせておけば、もっとペア活動が円滑に進んだと考える。

2, 「主体的・対話的で深い学び」の授業実践を行う上での留意点

事前の授業計画に尽きと思う。今回の公開授業において、単元目標（生徒に身につけさせる資質・能力）を明確に定め、指導、評価の計画に時間を費した。さらにそれを生徒と共有し、授業を展開することで、生徒も見通しを持って主体的に授業や課題に取り組むことができたと感じる。

また、授業中の発問が重要だと感じた。教科書で学習した知識や内容を問うものや、少し抽象度を高め、生徒の経験や背景知識を含めて思考させる問いなど、事前いくつか準備しておく。問いかけることで「教師-生徒」、「生徒-生徒」の対話が生まれ、より深い理解や思考へと繋がる。英語で問いかけ、英語で答えさせると「やり取り」の活動となる。英語で英語の問題を解決することとなり、生徒の達成感や自信に繋がる。

今単元では、教科書本文の登場人物（英語落語の第一人者）同様、目的を持って英語でチャレンジすることの素晴らしさと可能性を感じ、自分の生き方や将来の夢に加味することを単元目標とした。授業を通して、学習した内容を「自分事」とするために、生徒の実生活や現代社会の諸問題と学習内容を繋げ、問いかけ、考えさせることが生徒の「深い学び」に繋がると考える。

3, 最後に

遠方よりご参観いただき、ご指導・ご助言をくださった指導主事の先生方、各校の先生方に心よりお礼を申し上げ、授業レポートといたします。本当にありがとうございました。